

# 井原遺跡群Ⅳ

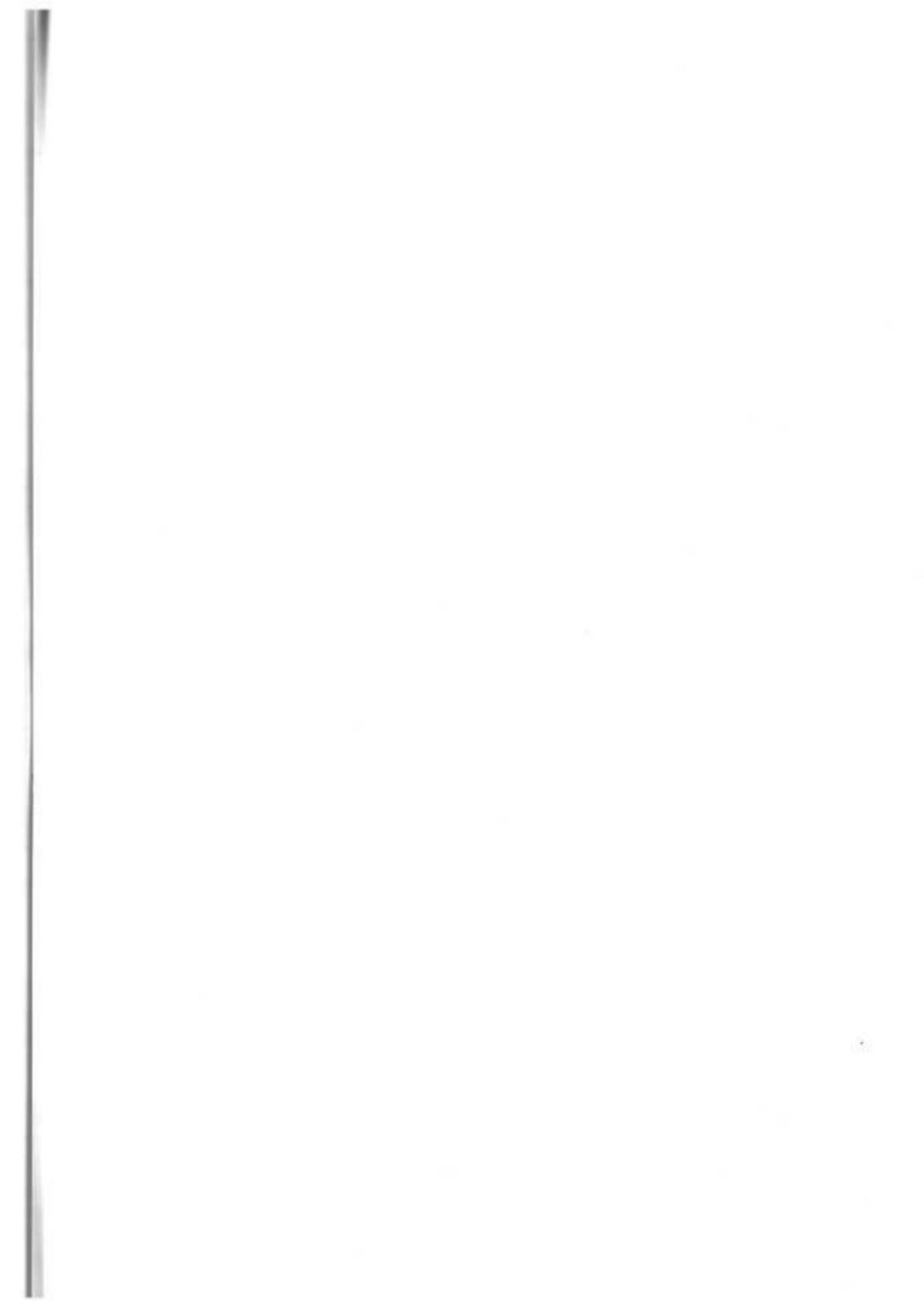
—井原遺跡群・松井・上学地区の調査概要—

前原町文化財調査報告書

第21集

1985

前原町教育委員会



## 刊 行 に あ た っ て

井原遺跡群は、福岡県糸島郡前原町に存在する埋蔵文化財包蔵地で、江戸時代の天明時代の天明年間に発見されました井原鍵溝遺跡を含めることなどから、三雲遺跡群と春日市須玖・岡本遺跡や飯塚市立岩遺跡とともに、学問的に注目をあびています。

本書は、昭和59年度に実施された井原地区県営ほ場整備事業に伴い、埋蔵文化財の発掘調査を実施しました記録の概要であります。

よって、十分な内容のものではありませんが、今後、本町に存在する文化財のご理解の一助になればと考えております。

最後に、調査に際して、ご協力をいただきました福岡県福岡農林事務所、前原町土地改良区や地元のは場整備推進協議会の皆様、そして、調査上の有益なご助言をいただきました福岡県教育委員会、福岡県福岡教育事務所に対して、深く感謝するものであります。

昭和60年3月31日

前原町教育委員会

教 育 長 豊 島 禮 蔵

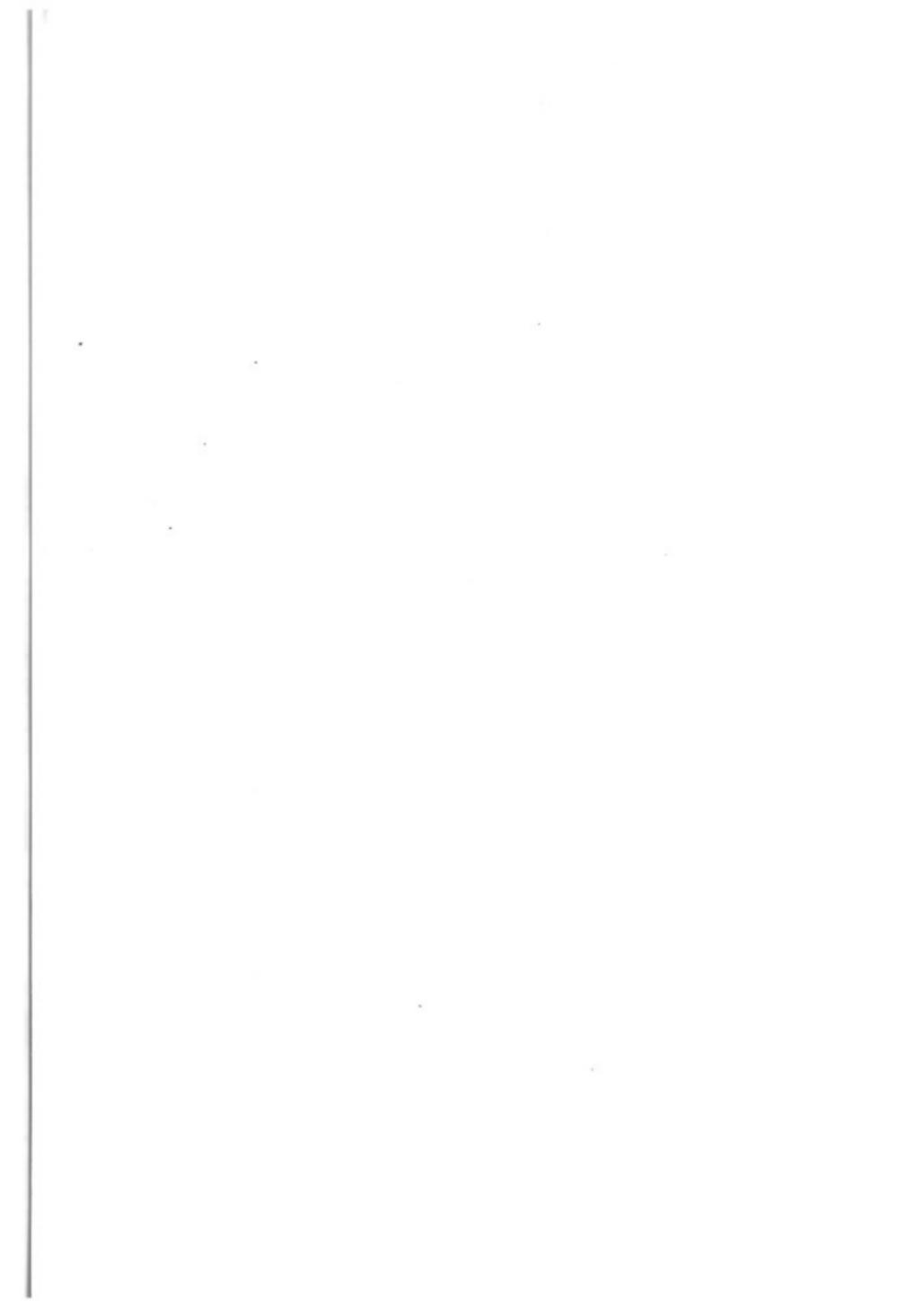


## 例 言

1. 本書は、福岡県糸島郡前原町大字井原他に所在する井原遺跡群発掘調査の概要である。
2. 発掘調査は、前原町教育委員会が国・県補助事業と福岡県からの委託事業として実施したもので、昭和59年度井原地区泉宮ほ場整備事業に伴うものである。
3. 本書に記載した実測図は、石井扶美子・岡部裕俊・林 覚・川村 博が作成したものを、石井・岡部が製図した。
4. 調査に伴う遺跡の写真撮影については、岡部・林・川村がおこなった。
5. 本書の執筆は、石井・林の協力を得て、岡部・川村がおこない、編集は4者が協力しておこなった。

## 本文目次

I はじめに	1
1. 調査に至る経過	1
2. 発掘調査の組織	2
3. 調査日誌抄	4
II 調査の概要とその内容	6
1. 概要	6
2. 松井地区の調査	8
3. 上学地区の調査	17



# I はじめに

## 1. 調査に至る経過

井原遺跡群は、福岡県糸島郡前原町大字井原他に所在する遺跡群である。

この遺跡群の発掘調査に至るまでの経過については、次のとおりである。

昭和54年度を前後する頃、前原町大字井原・西堂他の行政区において、農家の営農作業の拡充などを目的として、農地基盤整備の計画が考えられ、昭和55年に福岡県福岡農林事務所・前原町産業課（現・農政課）、前原町土地改良区にてその計画が推進され、昭和56年度を初年度として井原地区県営ほ場整備事業が実施されることになった。前原町教育委員会は、このほ場整備事業に対して、福岡県教育委員会文化課の指導などを参考にし、先の三者と協議して周知の埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施し、昭和56年度より本調査を実施することにした。

昭和59年度については、福岡県福岡農林事務所より前原町教育委員会に、文化財保護法にもとづき、届出が提出され、両者の数度の協議を経て、発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、基本的に文化財側が調査費を負担することであったが、昭和59年度では、調査費の不足が考えられ、先の協議にもとづき、農政側にご援助をいただき、県からの委託事業としても実施した。発掘調査の期間は、昭和59年8月10日から昭和60年2月2日である。

なお、発掘調査に伴い、次の機関の方々からご協力などをいただきました。記して、深く感謝いたします。

### 福岡県福岡農林事務所

所長	半田 義輔	次長	平野 重利
農地整備鉤害課課長	中村 昭夫	農地整備鉤害課県営第二係長	原 新吾
主任技師	加治 正憲	主任技師	野美山英治
同	瀬来 祥市	技師	阿部 篤

### 前原町土地改良区

理事長	中村敬次郎	局長	吉住 誠
主任	石垣 謙心	構造改善事業係技師	松尾 正治
県営事業係技師	浅田 建司	団体営事業係技師	潤 茂和
同	西嶋 優		

### 井原地区県営ほ場整備事業推進協議会

会長 星丸 吉徳	副会長 佐々木 正	副会長 古藤 藤吾
会計 松崎七生臣		

## 2 発掘調査の組織

調査主体 前原町教育委員会

調査担当 前原町教育委員会社会教育課文化係

総括	教育長	豊島 禮蔵
	社会教育課課長	中原 直國
庶務	同 文化係係長	古村 耕治
	同 社会教育係係長	徳重 認
調査	同 主事	久保 静代
	同 文化係主事	川村 博
	同	林 覚
	総務課 主事	岡部 裕俊
	社会教育課文化係嘱託	常松 幹雄（現・福岡市教育委員会文化部文化課）

### 調査協力

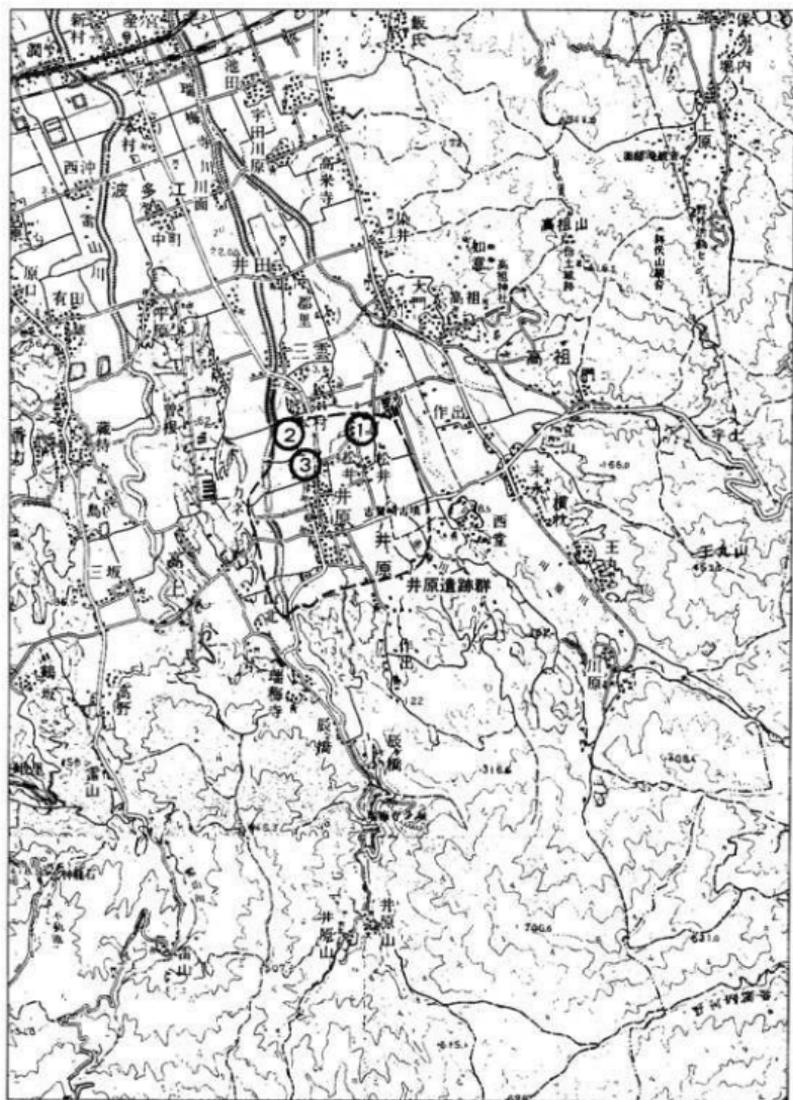
石井扶美子（前原町教育委員会発掘調査補助員）

平山千恵子 中峰幸枝 原野アサ子 中村照子 岡田りつ子 柏田睦子 吉木輝代 平山富士子 井上五月子 三苦ハルノ 平山キミ 山下ミツ子 原野スミ 三島大和 本田タツ子 野村松江 菊池ナオ子 小金丸利枝 山崎美代子 柳原キミ子 鬼尾トシ子 鬼尾ハツノ 井上モモエ 山崎チヨ子 山崎富士子 柴田節子 西木戸朝子 松崎初枝 井上サグヌ 井上キヌヨ 井上恵美子 吉永峰子 藤森シズエ 藤木綾子 藤森啓子 藤森千代子 徳永美根子 中村直美 竹内孝子 浅田登志子 寺田順子 中田ミユキ 小柳房子 橋本キヨ子 木村シゲノ 中原レイ子 東司まち子 笠ふさ子 米山八重子 中田智曉 渡辺重幸 右田大八郎 坂上清次

### 整理作業

東司まち子 中峰幸枝 小金丸利枝 平山千恵子 藤森啓子 岡田りつ子 野村松江 柏田睦子 竹内孝子 平山富士子 吉木輝代 原野アサ子

なお、発掘調査期間において、福岡県教育委員会管理部文化課の技術主査柳田康雄・技師赤司義彦各氏・福岡県福岡教育事務所社会教育課技術主査浜田信也氏や福岡市教育委員会文化部文化課の各職員から有意義な助言をいただき、奥野正男（筑紫古文化研究会主幹）・中村勝（同・研究会会員）・諸岡利寛（いと・しま古代文化研究会）の各氏には調査上の多方面にわたるご助力をいただきました。深く感謝いたします。



第1図 井原遺跡群周辺位置図 (1/50,000)

1. 井原遺跡群 松井地区

2. " 上学地区

3. " 下町地区

### 3. 調査日誌抄

#### (1) 松井地区

8月10日(金)

調査開始

8月11日(土)

遺構検出。

8月13日(月)～16日

旧盆のため作業中止。

8月17日(金)～10日

南区の遺構検出。

9月11日(水)～16日

中区の遺構検出。

9月19日(水)～27日

北区の遺構検出

及び実測

9月28日(金)～4日

写真撮影及び遺物

の取りあげ。

10月5日(金)

下層遺構の検出作業。

10月6日(土)～11日

中区下層遺構の検出。

10月12日(金)～18日

北区東端の住居跡を掘り下げると共に、中区・北区下層遺構の実測。

10月22日(月)～24日

写真撮影及び遺物の取り上げ。調査終了。

#### (2) 上学地区

10月30日(火) 調査開始。

10月31日(水)～11月5日(月) 調査区南区の表土剥ぎ・遺構検出・トレンチ設定を行なう。

11月6日(火)～10日(土) 北区の表土剥ぎ及び遺構検出。

11月12日(月)～29日(木) 住居跡・石棺墓を掘り下げると共に、遺構検出を続ける。



第2図 松井地区発掘調査作業風景



第3図 松井地区発掘調査作業風景

- 11月30日（金）～12月5日（水） 遺構検出・住居跡の掘り下げを続けると共に、完掘した住居跡等の清掃を行なう。
- 12月6日（木）～10日（月） 溝状遺構の掘り下げを行なう。
- 12月12日（水）～18日（火） 遺構の検出・掘り下げを行なうと共に、実測を行なう。
- 12月19日（水） 調査地西区に、東西方向にトレンチを3本設定する。
- 12月20日（木）～24日（月） 遺物の取り上げ・清掃を行ない、個別写真の撮影を行なう。
- 12月25日（火）～1月6日（日） 年末・年始につき作業中止。
- 1月7日（月）～9日（水） 未掘遺構を掘り下げると共に、個別写真の撮影を行なう。
- 1月11日（金） 溝状遺構を掘り下げる。
- 1月16日（水）～17日（木） 調査区域内全体を清掃し、写真撮影の準備を行なう。
- 1月18日（金） 空中写真撮影。
- 1月19日（土）～22日（火） 石棺墓及び未掘遺構を掘り下げる。
- 1月23日（水）～26日（土） 石棺墓を完掘すると共に、石棺墓・木棺墓等の実測を行なう。
- 1月28日（月）～29日（火） 個別写真撮影及び実測。
- 1月31日（木）～2月1日（金） 個別写真撮影・実測及び、南調査区の平板測量。
- 2月2日（土） 西調査区の平板測量。調査終了。



第4図 上学地区発掘調査風景

## Ⅱ 調査の概要とその内容

### 1. 概要

井原遺跡群は、玄海灘につきでた糸島半島の基幹部の糸島平野の中央部に位置する周知の埋蔵文化財包蔵地の一つである。

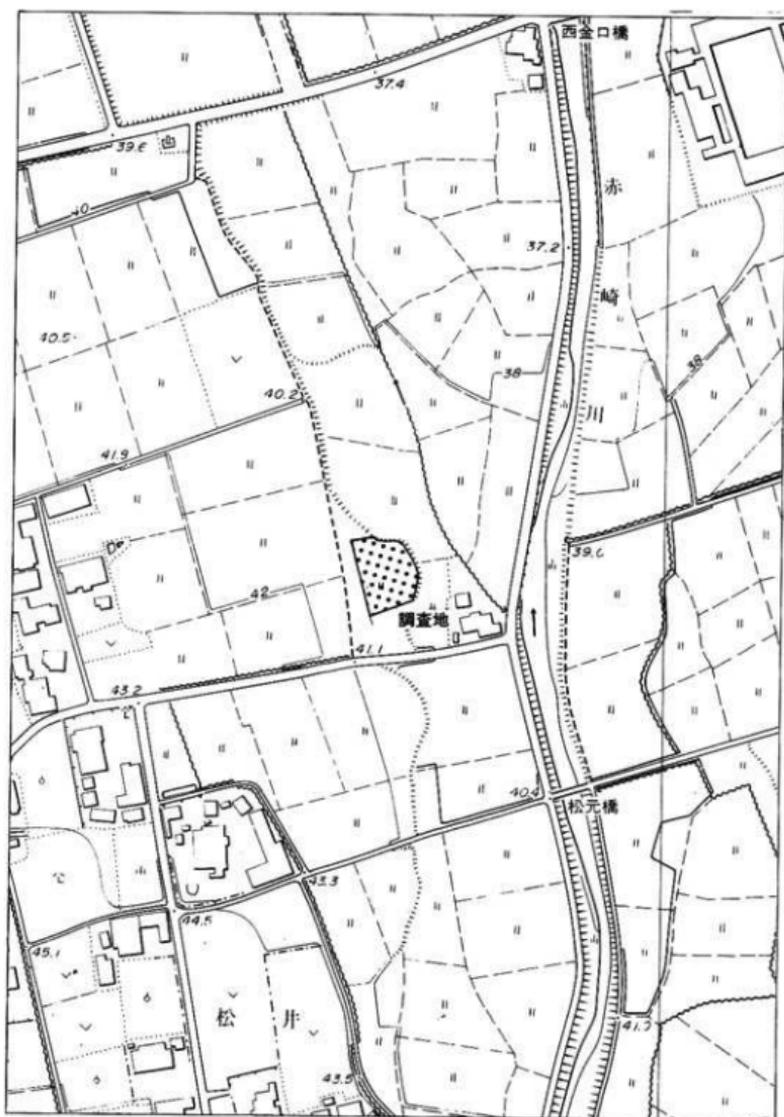
周辺の遺跡には、北側に三雲遺跡・志登支石墓群など著名な遺跡が存在している。東側の背振山山系から北にのびる山塊には、天平勝宝8(756)年に築造された山城・怡土城が、西側の丘陵上には、平原遺跡を含めた曽根遺跡群が、南側の背振山山系の雷山の中腹には、雷山神護石が存在し、衆目のまよになっている。

昭和59年度の井原遺跡群発掘調査は、前述したような経過をふまえて、松井・下町・上学地区を調査し、ほ場整備事業施工上の排水溝などは立合い調査を行なった。

松井・上学地区の調査は本書に記載するとおりであるが、発掘調査面積が広大であり、出土遺物の量が多く、本報告として公表することが困難であったため、今回は概要とさせていただくことにした。また、下町地区については、別冊とし調査内容を公表させていただいた。今後、概要として報告しました調査をも含めて、早急に調査報告をまとめる予定である。



第5図 調査区南側全景(西から)



第6図 井原道跡群・松井地区位置図 (1/2500)

## 2. 松井地区の調査

井原遺跡群の松井地区は、赤崎川が北流する西側段丘状の微高地(標高約41.0m)になる。調査は、ほ場整備の削平部と新設道路部で削平される地域を調査した。

この地区では、上層・下層と2層にわたり、調査することになり、上層では、住居跡6軒、溝2条、土壇7基、木棺墓7基を検出した。下層では、住居跡5軒と数軒重複した住居跡群1ヶ所・土壇4基・土壇墓2基を検出した。

以下、各遺構の概要を記すが、詳細については、今後の本報告を参照していただきたい。

### 上層の遺構

#### 竪穴式住居跡

##### 1号住居跡

上層の調査区南西部で検出した住居跡で、隅丸方形プランを呈し、南側に巾広いベッド状遺構をもつ。周溝は住居跡を全周し、主柱穴は4本になるであろうが、2個のみの柱穴を検出した。住居跡の北東隅で、方形の柱穴で切られている。この柱穴は奈良期である。住居跡の時期は、古墳時代前期である。

##### 2号住居跡

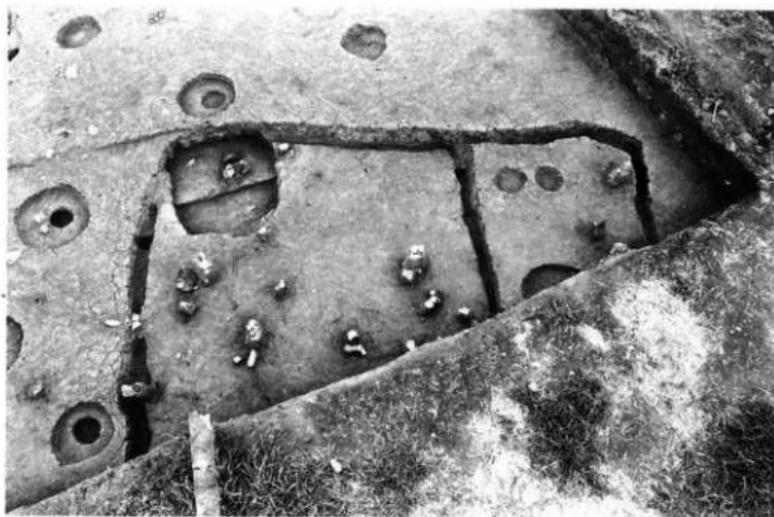
調査区の南側中央で検出した隅丸方形プランの住居跡で、6号住居跡を切っている。周溝は、



第7図 調査区全景(東南から)

住居跡	規 模 (m)	形 態	柱穴の数 ・ 大きさ (cm)	炉・カマド		ベッド	周溝	時 期	新旧関係
				炉	カマド				
1	$(3.0+\alpha)\times 4.75$	方形	$2+\alpha$ ・約40			○	○	古 前	
2	$6.85\times 5.87$	方形	$3+\alpha$ ・約30	○			○		1 ← 6
3	$4.24\times 4.52$	方形	$3+\alpha$ ・約30				○		3 ← 4
4	$6.72\times 6.20$	方形	$2+\alpha$ ・約25	○			○		4 → 3
5	$(3.90+\alpha)\times (3.95+\alpha)$	方形							5 ↑ 6 ↓ 7
6		方形?							
7	$(3.42+\alpha)\times 4.54$	方形	$2+\alpha$ ・約25						7 ← 5
8	$4.65\times 4.59$	方形	4 ・約30	○					
9	$3.45\times (2.40+\alpha)$	方形	$2+\alpha$ ・約20			○			
10	$(3.4+\alpha)\times 5.4$	方形				○	○		10 ← 11
11		円形							11 → 10
3号住居跡 下層住居跡		方形				○			

第1表 松井地区住居跡一覧表



第8図 1号住居跡(西から)

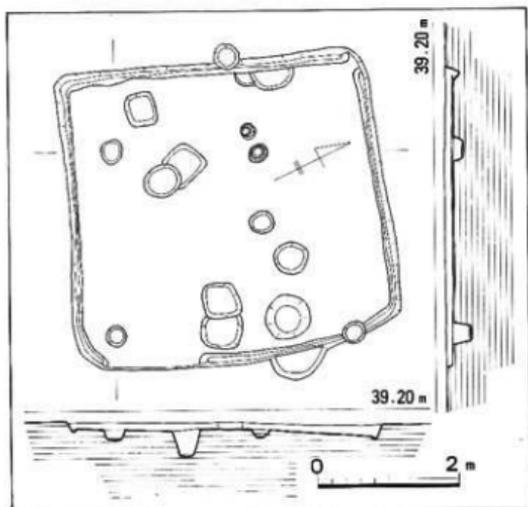


第9図 2号住居跡(北から)

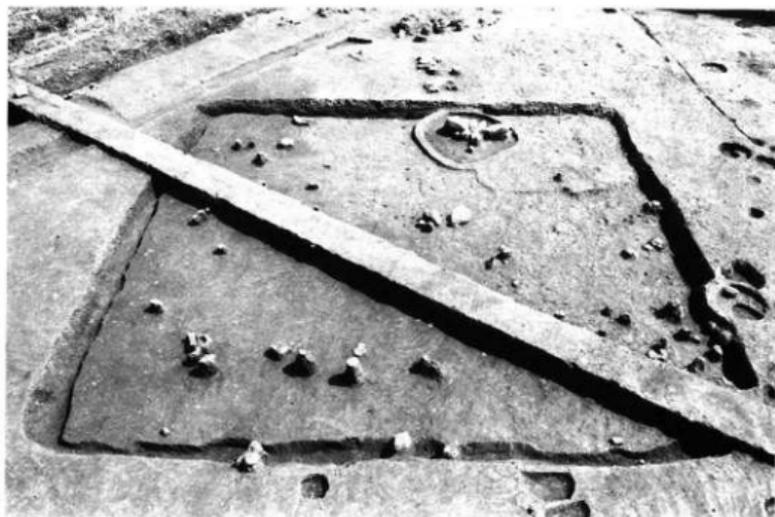
住居跡を全周し、床面には多数の柱穴を検出しているが、今後の出土品の整理過程で明確になるであろう。また、床面には、住居跡の建材であろう木材の炭化物等を検出し住居跡西側に焼土を検出している。

### 3号住居跡

2号住居跡の北側で検出した方形プランの住居跡で、一部を除き、周溝は全周する。柱穴については、2号住居跡同様である。



第10図 3号住居跡実測図(1/80)



第11図 4号住居跡(北西から)

#### 4号住居跡

3号住居跡の東側で検出した住居跡で、西北隅で3号住居跡に切られている。方形プランを呈し、西側壁に貯蔵穴を有している。柱穴については、前住居跡と同様である。また、南側壁では、土壌に切られている。

#### 5号住居跡

この住居跡は、調査区東南側で検出した住居跡であり、住居跡の東側壁は2号溝で切られている。また、南側壁では1号溝に、西側壁では6号住居跡に切られている。周溝はなく、柱穴などの検出については、住居跡を築く際に若干埋立をおこない、礎などを床面に検出したため、明確にすることができなかった。

#### 6号住居跡

2号住居跡・5号住居跡間に検出した住居跡で、両者に切られている。方形プランになると考えるが、詳細は不明である。

なお、3号住居跡北側で検出した方形を呈する遺跡は下層に伴うものである。

#### 溝

##### 1号溝

調査区西側で検出した巾が狭い溝で、南側で5号住居跡、北側で2号土壌を切っている。溝

七填番号	規 模 (cm)		平面形状	土填番号	規 模 (cm)		平面形状
	長さ × 幅 × 深さ				長さ × 幅 × 深さ		
1	138 × 176 × 26		不整形	7	$(89+\alpha) \times 184.5 \times 20$		方 形
2	$(160+\alpha) \times (320+\alpha) \times 12.5$		不 整 形	8	157 × 168 × 26		隅丸方形
3	190 × 256 × 6.2		不 整 形	9	205 × 143 × 10		不 整 形
4	154 × 241 × 10		隅丸方形	10	$(332+\alpha) \times (290+\alpha) \times 5$		不 整 形
5	135 × 69 × 6.8		隅丸長方形	11	$(125+\alpha) \times 168.5 \times 14$		円 形
6	$(79+\alpha) \times 133 \times 12$		楕 円 形				

第2表 松井地区土填一覧表

の巾約0.8～1.0mを測る。

## 2号溝

1号溝の東側で南北に走る溝で、溝の埋土は2層にわかれる。上層の断面の状況は法面で横をみる。溝の肩には、3ヶ所柱穴状ビットをみるが、調査時、溝の北半分でも検出につとめた。明確にすることができなかった。

## 土填

### 1号土填

2号住居跡北側で検出した不整形な方形プランの土填で、床面では西側が一段高くなっている。埋土の層序はかなり不明確であり、序々に埋ったものでない。

### 2号土填

1号溝、2号溝の北側で検出した土填で、不整形プランを呈する。

### 3号土填

調査区の北部の中央で検出した土填で、不整形プランを呈する。性格については不明である。

### 4号土填

3号土填の東北側で検出した隅丸方形プランの土填の北側ではビットを切っている。

### 5号土填

調査区の西側中央部で検出した隅丸長方形プランの土填で、6号土填を切っている。柱穴の可能性もあろうと考え、周辺の遺構なども含め、遺構の検出につとめた。建物跡としてまとまらないために、土填としてあつかった。

### 6号土填

5号土填に切られた土填で、ほぼ円形プランを呈する。性格は5号土填と同様である。

### 7号土填

6号土填の北側で検出した方形プランの土填である。調査時には、井戸の可能性もあつたと思われたが、それではなかった。

遺構番号	主軸方向	墓 長さ × 幅 × 深さ	墓 墳 (cm) 平面形状	棺 内 法 (cm) 長さ × 幅 × 深さ
木 棺 墓				
1	N-32°-E	177 × 122 × 5	方 形	118 × 62 × 2
2	N-80°50'-W	220 × 70 × 6	不整形	220 × 62 × 2
3	N-13°-E	152 × 90 × 10	方 形	152 × 90 × 10
4	N-15°50'-E	184 × 83 × 7	方 形	184 × 83 × 7
5	N-8°30'-E	137 × 54 × 8.5	方 形	137 × 54 × 8.5
土 墳 墓				
1	N-83°-W	205 × 103 × 11	方 形	205 × 103 × 11
2	N-46°50'-E	180 × 92 × 7	不整形	180 × 92 × 7

第3表 松井地区木棺墓・土墳墓一覧表

#### 木棺墓

##### 1号木棺墓

3号住居跡の北西側で検出した木棺墓であり、検出時にはかなり削平をうけていた。よって棺の掘り方・棺内法などについては不明確なものである。出土遺物には、副葬品として龍泉窯系青磁の碗を出土した。

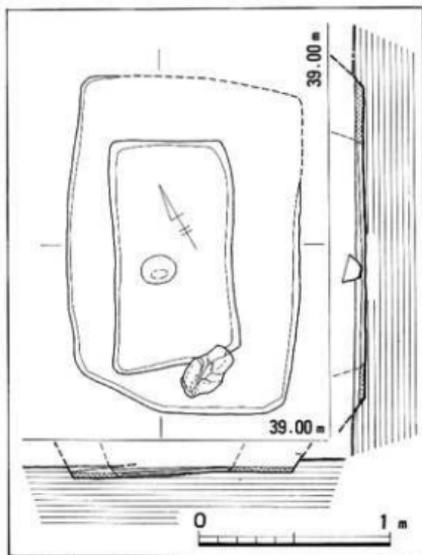
##### 2号木棺墓

4号住居跡の北側で検出された木棺墓であり、床面の西側に柱穴をみるが、木棺墓に関連するものではない。副葬品には黒色土器の碗が出土していた。

##### 3号木棺墓

3号土壌の東側で検出した、長方形のプランを呈する木棺墓で、頭位は北側であろう。かなり削平をうけていたため棺の内法などを明確にできなかった。床面に柱穴を検出しているが、木棺墓にともなうものではない。

##### 4号木棺墓



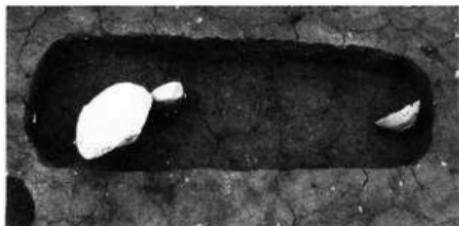
第12図 1号棺墓実測図(1/30)

ため棺の内法などを明確にできなかった。床面に柱穴を検出しているが、木棺墓にともなうものではない。

3号木棺墓の北側で検出した木棺墓で、長方形プランを呈する。頭位は北側であろう。床面に柱穴を検出していることや棺の内法については、3号木棺墓と同様である。

#### 5号木棺墓

5、6号土壇の東側で検出した木棺墓で長方形プランを呈する。頭位は東側で、出土遺物には、副葬品として越州窯系青磁の椀がある。



第13図 5号木棺墓(北から)



第14図 5号木棺墓遺物出土状況(北から)

#### 下層の遺構

##### 竪穴式住居跡

##### 7号住居跡

調査区を南西部で検出した方形住居跡で、上層調査時に一部プランを検出していた。5号住居跡に切られている。床面には柱穴を検出しているが、主柱は4本であろう。また、床面には焼土も検出している。周溝はな



第15図 調査区全景…下層(南から)

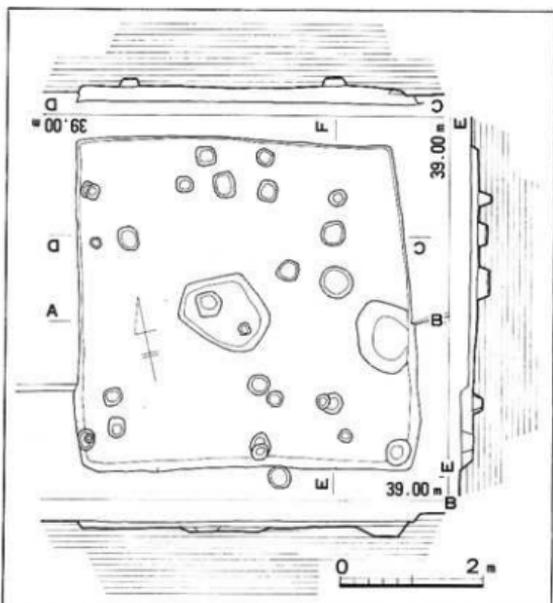
い。

#### 8号住居跡

調査区の中央部の東側よりで検出した住居跡で、方形プランを呈する。住居跡内東側で、貯蔵穴を検出している。床面の中央部では一段低い平坦部をもつ、柱穴を検出しているが、4本が主柱になるであろう。

#### 9号住居跡

8号住居跡の西側で検出した方形プランの住居跡で、かなり削平を受けている。北・東側の壁の角部にはベッド状遺構をもち、東北



第16図 8号住居跡実測図(1/80)

側の壁は柱穴によって切られている。また、西南側の壁については、削平のため検出できなかった。床面中央部には卵形のプランを土壌を検出しているが、住居跡の貯蔵穴としてよいか否かについては、出土遺物整理時などの課題としたい。

#### 10号住居跡

調査区西側の北よりで検出した方形プランの住居跡で、調査時には周溝のみを検出できた。床面の東壁側では一部周溝を検出することができたため、東側にはベット状遺構をもっていたものとする。また、床面に検出した柱穴のなかで2個が倅うものであり、4本の主柱になるであろう。なお、北側の壁は土壌、ピットに切られている。

#### 11号住居跡

10号住居跡の南側で、柱穴群を検出しているが、一部、円形にめぐる柱穴群を調査することができた。柱穴がやや小規模ではあるが、円形住居跡の可能性はある。

なお、8号住居跡の南西側で検出した3号住居跡北側下層住居跡群として、調査時に仮称した重複した遺構については、切合いが不明確であったため、今後の課題とする。また、7号住

居跡の北側の遺構、10号住居跡の西側、北側の遺構については、調査時には住居跡として考えていたが、一応、この概要の段階では保留したい。

#### 土壌

##### 8号土壌

10号住居跡の北側で検出した土壌で、隅丸方形の平面プランを有する。土壌の北側では、住居跡状遺構を切っている。

##### 9号土壌

10号住居跡・10号土壌を切っている不整形プランの土壌で、土壌の南東側では柱穴に切られている。

##### 10号土壌

9号土壌に切られた土壌であるが、検出した土壌の中では、大規模の方である。土壌の東側では、他の遺構と切り合っていると考えられるが、調査時には、それを明確にすることができなかった。

##### 11号土壌

西側が調査区域外にのびる土壌で、ほぼ円形を呈すると思われる。性格は不明である。

#### 土壌墓

ここでは、土壌墓としているが、木棺墓の可能性はあるものの、調査時の名称として報告する。

##### 1号土壌墓

10号住居跡の東側で検出した土壌で、長方形プランを呈する。頭位は北東側であり、底面で検出した柱穴は伴うものでないとする。

##### 2号土壌墓

1号土壌墓の東側で検出した土壌墓で、頭位は東側である。プランは長方形をしている。

#### 柱穴状ピット

下層で検出した遺構では、上記したもの以外に、多数の柱穴等を調査できたが、上層の柱穴をも含め、また、土壌内の遺物の検討も含めて、本報告に期することにする。

### 3 上学地区の調査

上学地区は雷山山系から加布里湾へそぐ雷山川の中流域東岸、三雲扇状地が浸食、形成された河岸段丘の上段縁片部に位置する。調査区東北 250 m には青柳種信の「柳園古器略考」でその名をはせた三雲南小路遺跡、またその南西 150 m には昭和56年～58年度に前原町教育委員会が調査を行い30棟・掘立柱建物5棟・石棺墓一基等を検出した三雲上覚遺跡が隣接する。

当調査地点における調査概要は以下のとおりである。なお個々の遺構・遺物に関する詳細な報告については本報告に譲りたい。

#### 竪穴式住居

調査区内より検出された竪穴式住居は計24棟であり、弥生時代中期後半から古墳時代中期にかけてのものである。

##### 1号住居跡

調査区北西端に位置する住居で北側は未調査地にかかる。溝4を切って掘り込まれている。中央部より焼土を検出した。

##### 2号住居跡

1号・7号住居跡と切り合って建つ住居跡で北半部を未調査地に残す。4本柱の長方形プランを呈する。床縁片には周溝がめぐる。



第17図 2号住居跡(南から)



第18図 井原遺跡群上学地区位置図 (1/2500)

### 3号住居跡

2号住居跡にならび、北半部を未調査地にかける小形の住居跡で軸を4号住居跡と同じくする。主柱は検出されていない。

### 4号住居跡

1号木棺墓・2号木棺墓に切られる住居跡で4本の主柱を建てた長方形プランをもつ。北壁は未調査地に残す。

### 5号住居跡

溝5を切って建てられた住居跡であるが西半部は整地、削平を受け残存しない。長方形プランを呈するものと思われる。北側は未調査地にかかる。

### 6号住居跡

1号住居跡の南西に東側を未調査地に残して建つ住居で長方形プランをなす。主柱と特定できる柱穴は確認されなかった。

### 7号住居跡

2号・12号住居跡と切り合う建物で正方形プランの2本主柱を有す。住居の南東と北西縁辺に各々1本ずつの棟特柱をもつ。北東壁に階段状土盛りを有し中央には焼土面が観察された。東・北・西壁面下に周溝をめぐらす。

### 8号住居跡

12・13号住居跡と切り合う4本主柱、長方形プランの建物で、東半部は調査区外に伸びる。床面には焼木がみられ、北壁中央にはつくりうけのカマドを備える。床周縁には周溝を設けている。床面上より古式須恵器・土師器等が出土した。



第19図 8号住居跡(西から)



第20図 9号住居跡(東から)

#### 9号住居跡

8号住居跡と主軸を同じくする4本主柱の住居跡で、東西に一部切れ目をもつが床面全周に周溝をめぐらす。中央南寄りに焼土がみられた。

#### 10号住居跡

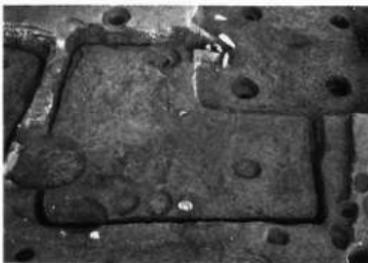
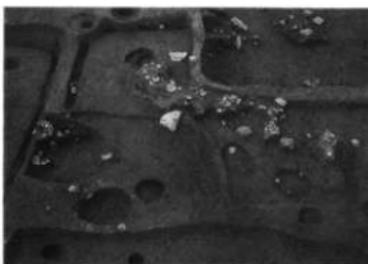
9号住居跡に切られた隅丸長方形の住居跡で西半部は整地・削平を受け消失している。床面上より浮いた状態で須恵器高杯が出土した。

#### 11号住居跡

10・18号住居跡に切られる住居跡で長方形プランを呈する。主柱の復元には今後の検討を要する。下面にひとまわり小さい住居跡を検出しており、同一住居の立て換え、拡張が考えられる。

#### 13・14・15号住居跡

互いに切り合い東半部を調査区外に残す住居跡群である。13号住居跡は側壁がゆるやかに湾曲し、14・15号住居はいずれも長方形プランをなす。明確な主柱・周溝は検出されなかった。



第21図 11号住居跡  
(上、建て換え後 下、建て換え前)



第22図 18号住居跡(西から)

#### 16・17号住居跡

15号住居跡・2号木棺墓・2号土壇と切り合う住居跡で東部は調査区外にのびる。16号住居跡は床面周縁部に周溝をめぐらしており、4本主柱を有するものと推されるが、柱穴の径は小さく浅い。17号住居跡は住居南西隅のみの検出である。

#### 18号住居跡

11号住居跡と切り合う方形プラン、4本主柱の住居跡である。周溝をもたず北壁中央につくりつけのカマド、南壁には階段状の土盛りがみられる。住居中央には「井」字形に組まれた焼き火跡がみられ、床面から古式須恵器・土師器が出土している。住居跡は少くとも、一度の立て換え、南・西部への拡張が行なわれている。

#### 19号住居跡

18号住居跡の南西に位置するひとまわり小さい長方形プラン、4本主柱の建物である。南西部で、土壇に切られており周溝はもたず四隅は若干の丸みをもっている。

#### 20号住居跡

3号木棺墓の南東部に位置する住居跡で、住居跡南西隅が、調査区内にわずかにかかっている。現況では隅丸長方形を呈しているが調査部がわずかであるため詳細は明らかにし難い。

#### 21号住居跡

調査区のほぼ中央に位置する方形プランの住居跡で1号竪棺墓・10号石棺墓を切って掘り込まれている。4本主柱を持ち北東柱穴は竪棺を割って穿たれている。住居跡北側壁面近くよりまとまった焼土が検全されておりカマドの痕跡の可能性をもつ。

#### 22号住居跡

21号住居跡に切られる住居跡で中軸には大巾にずれるが、4本主柱をもつものと考えられる。床面には焼木が多く横たえていた。床周縁には周溝を設けている。東柱穴よりは土製小形勾玉が出土している。

#### 23号住居跡

6号石棺墓に切られた住居跡で不整形方形プランを呈する。明確な主柱は検出しえなかった。埋土より、弥生中期末の土器が出土している。

#### 24号住居跡

22号住居跡の北東部に位置する住居跡で方形プランを呈す。上面の削平が著しくわずかに床面のみが残っている。4本主柱と考えられるが中心からかなりはずれる。



第23図 調査区北側住居群の切り合い

住居跡	規 模 (m)	形 態	柱 穴 の 数 ・ 大 き さ (cm)	炉・カマド		ベツド	厨 溝	時 期	新 旧 関 係
				炉	カマド				
1	$(3.51+\alpha)\times(2.79+\alpha)$	方 形		○					1 → 2
2	$6.2\times(3.8+\alpha)$	方 形	$3+\alpha$ ・約40				○		2 ← 1 ↘ 7
3	$2.3\times(0.7+\alpha)$	方 形							
4	$(3.4+\alpha)\times(0.7+\alpha)$	方 形	4 ・約45						
5	$3.31\times 0.9$	方 形							
6	$(1.8+\alpha)\times 4.5$	方 形	$2+\alpha$ ・約35				○		
7	$4.9\times 5.3$	方 形	2 ・約35	○			○		7 → 2 ↘ 12
8	$(4.4+\alpha)\times 6.62$	方 形	$2+\alpha$ ・約50		○		○		8 ← 12 ↘ 13
9	$5.3\times 5.53$	方 形	4 ・約50				○		
10	$(1.82+\alpha)\times(2.4+\alpha)$	方 形							10 → 11
11	$(4.1+\alpha)\times 4.8$	方 形	4 ・約50				○		11 → 10 ↘ 18
12	$(4.52+\alpha)\times(4.8+\alpha)$	方 形	4 ・約40				○		12 → 7 ↘ 8
13	$(2.8+\alpha)\times(5.05+\alpha)$	方 形							13 → 14 ↘ 15
14	$(1.5+\alpha)\times(2.07+\alpha)$	方 形							14 ← 13 ↘ 15
15	$(1.5+\alpha)\times(2.35+\alpha)$	方 形							15 ← 13 ↘ 14
16	$(3.6+\alpha)\times(4.05+\alpha)$	方 形	$3+\alpha$ ・約30	○			○		16 → 13 ↘ 15 ↘ 17
17	$(1.48+\alpha)\times(1.4+\alpha)$	方 形							17 ← 15 ↘ 16
18	$4.35\times 4.2$	方 形	4 ・約40		○				18 → 11
19	$3.2\times 3.4$	方 形	4 ・約30						
20	$(2.2+\alpha)\times(0.5+\alpha)$	方 形							
21	$4.16\times 4.7$	方 形	4 ・約50						21 ← 22
22	$3.9\times(2.5+\alpha)$	方 形					○		22 → 21
23	$2.45\times 2.8$	方 形							
24	$3.1\times 3.4$	方 形	4 ・約30						

第4表 上学地区住居跡一覧表

## 溝

調査区内を南北に流れる溝跡を、9条確認した。いずれも埋土は粗砂・レキ・シルトによって構成されており、明確な溝の掘り直し改修の痕跡は認められず、比較的短時間のうちに埋没したものと考えられる。

### 溝1

調査区中央を南北に流れ、北流する小溝で掘り方断面がU字状をなす。上面が削平されているため調査区北端から南へ21mで消失する。北端部での溝幅120cm深さ20cm埋土から多量の古式土師器が出土した。



第24図 溝1上層、土器出土状況

### 溝2

溝1に沿って北流する溝で逆面断台形状を呈する。北端部の溝幅100cm・深さ25cm。一部溝1と罫を交差し溝1を切り、南方へ22mで溝3に切られている。調査区の制約から、南方への流路の経緯は明らかにはできなかった。出土遺物は少量であった。

### 溝3

調査区を南北に縦断して北流する溝で、北端部での溝幅220cm・深さ94cmを測る。断面はU字形を呈し、基本層位は4層に分かれる。溝の深さは上流に向かう程浅くなる埋土より古式土師器・古式須恵器等が出土している。

### 溝4



第25図 調査区を南北に流れる溝

調査区中央北端部で南流し、大きく蛇行して溝3にそそぎ込む小溝で埋土の堆積状況から溝3と同時期に使用された溝である。幅70cm・深さ8cmの浅い逆台形状の断面を呈する。出土遺物は稀少であった。

#### 溝5

調査区を北東から南西へ縦断する溝で断面は幅広いV字状をなす。いずれの遺構からも切られており、また埋土から出土した土器はいずれも夜白式土器の範ちゅうに含まれるものであるため、同時期の遺構としてとらえうるものと考えられる。

#### 溝6、7、8、9

いずれも南側調査区で検出した溝で溝4と合流、分流が複雑に繰り返されている。各々別個の溝としてとらえるより溝3における流路変更の過程としてとらえるべきものと考えられる。いずれの溝も粗砂層に混じり古式須恵器・土師器等が出土している。

#### 石棺墓

当調査区より検出された石棺墓は抜き取り跡を含め計9基であった。墓域の主流は大きく西南部から北々東へ細長く連なる。今後、石棺墓と木棺墓・カメ棺墓・土器埋納土壇等との墓群形成における相互関連等について検討を行ってゆく必要があろう。

以下その概要について述べる。

#### 1号石棺墓

4号住居跡を切って掘り込まれた石棺墓で、墓群の主流域からはずれてつくられる。2号木棺墓と主軸を同じく並列する。頭位は北向きで頭上部に木製容器の痕跡をとどめる。墓域西側より供献されたと思われる土師器カメ・ツボ等が出土している。

#### 2号石棺墓

16号住居跡に墓域北側を切られる石棺墓で、上面は削平を受け、すでに棺材は抜き取られている。小児棺であろうか。

#### 3号石棺墓

4号石棺墓と並置する石棺墓で側石は全て抜き取られており、底石の一部を残すのみである。棺分量からみて小児用棺と考えられる。

#### 4号石棺墓

削平より蓋石を消失しているが側石以下は北木口石を除き残存する。棺幅が北に向けて広がる



第26図 石棺墓群の配置

ことから頭位は北向きであったと考えられる。

#### 5号石棺墓

4号石棺墓の南に位置する石棺墓で蓋石は北側に向けて大きくなり黄褐色粘土を隙間に充填している。底石には拳大の河原石を敷き詰め、朱を棺内に塗布している。

#### 6号石棺墓

23号住居跡を切って掘り込まれた石棺で墓壇は不整楕円形を呈し、蓋石は南に向けて大きさを増し隙間に黄褐色粘土を充填する。頭位は南東を向き築成されている。

#### 7号石棺墓

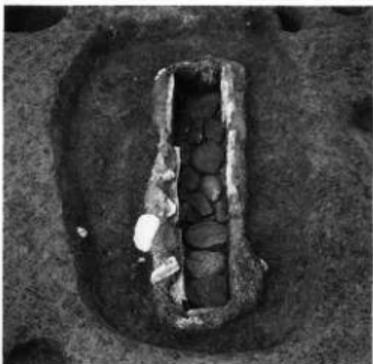
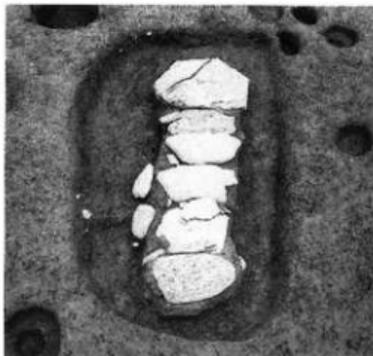
21号住居跡に切られていたため側石が抜き取られた底石のみが残存していた。底石幅から頭位は南西を向くものと思われる。墓壇は甕棺墓の墓壇を切って掘り込まれていた。

#### 8号石棺墓

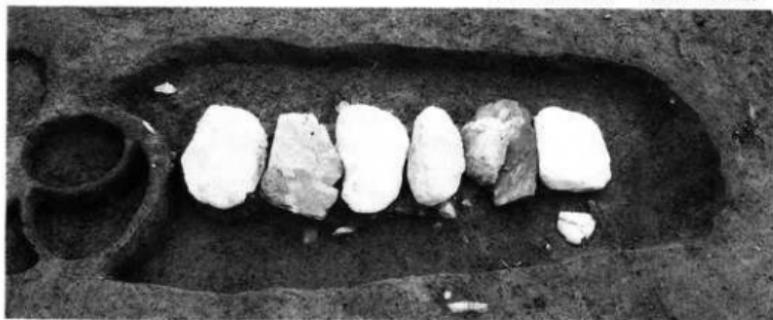
9号石棺墓と併列する石棺墓で、墓壇は南向きに広がりを見せる。蓋石は比較的小ぶりの板石を用いており内面には全面に朱を塗布する。蓋石隙間の粘土充填は顕著でない。

#### 9号石棺墓

8号石棺墓に若干北へずれながら並置する石



第27図 5号石棺墓  
(上、蓋石除去前 下、蓋石除去前)



第28図 8号石棺墓

棺墓で墓壇は隅丸長方形をなす。石棺は墓壇西に片寄りに埋置されており、蓋石は大きめの板石4枚で隙間に小石をつめた後で黄褐色粘土を充填している。頭位は北向きで、頭上部に黒漆塗り木製椀の副葬を行った痕跡をとどめていた。

### 石蓋土墳墓

調査区中央北寄りに近接して2基検出されたが成人墓、小児墓各一基であった。

#### 1号石蓋土墳墓

墓壇は2段に掘り込まれており、1段めは隅丸長方形を呈し、フラットな面をつくった後、二段めの主体埋葬部は狭めの長方形土壇を掘る。頭位は南向きである。墓壇は深い。

#### 2号石蓋土墳墓

1号石蓋土墳墓の南6mに3号木棺墓に並置されていた。蓋石は不揃いの板石、柱状石を用いており隙間には小石・黄褐色粘土を充填していた。頭位は南向き、3号木棺墓との切り合いは不明瞭であった。



第29図 9号石棺墓



第30図 1号石蓋土墳墓

遺構番号	主軸方向	墓壇規模(cm) 長さ×幅×深さ	墓壇 平面形状	棺内規模(cm) 長さ×幅×深さ	蓋石	副葬品
石棺墓						
1	N-11°20'-E	260 × 158 × 17	不整長円形	141 × 32 × 33	4	
2	N-17'-E			111×× 36 × (7)		
3	N-12°50'-E	245 × 123 × (10)	不整長円形	185 × 40 × —		
4	N-21°50'-E	251 × 126 × (20)	不整長方形	(185) × 40 × 12		
5	N-24'-E	258 × 147 × 13	不整長方形	176 × 40 × 42	6	
6	N-31°50'-E	232 × 171 × 19	不整楕円形	162 × 32 × 20	5	
7	N-28'-E			179 × 40 × —		
8	N- 7'-E	276 × 121 × 14	不整長方形	160 × 35 × 20	7	
9	N- 5'-E	253 × 152 × 42	不整長方形	170 × 35 × 25	4	鉄・鎌
石蓋土墳墓						
1	N-22°30'-E	183 × 121 × 22	長方形	145 × 48 × 27	5	
2	N-34'-E	183× (117+α) × 15	不整長方形	121 × 43 × 21	4	

第5表 上学地区石棺墓・石蓋土墳墓一覧表

## 木棺墓

石棺墓群と墓域をともにして7基の木棺墓を検出したが、主軸方向は石棺墓群と比して一貫性に欠ける。副板等は検出されなかった。

### 1号木棺墓

1号石棺墓の北に位置する主軸を東西に向ける小児棺で、墓域北は調査区外に残る。棺内中央に朱塊が残存していた。

### 2号木棺墓

1号石棺墓に併置される木棺墓で、主軸を同じくする成人棺である。墓域外形は、柱穴に切られた箇所が多く明瞭でない。木棺主体部は南向きに若干広がる。

### 3号木棺墓

2号石蓋土墳墓と併置する木棺墓で墓域は狭長方形を呈する。木棺主体部南北端に人頭台の塊石を置く。木棺の標石であると思われる。

### 4号木棺墓

主軸を1号木棺墓と同じくする木棺墓で、墓域は不整形形状を呈す。木棺は墓域の北寄りに埋置されていた。小児棺と思われる。

### 5号木棺墓

4号石棺墓に併置されている木棺墓であるが主軸は真北に近い。墓域は不整形円形を呈し南端で6号木棺墓と接する。成人棺である。

### 6号木棺墓

4号石棺墓の南西に位置し、主軸を同じく

する木棺墓である。墓域は不整形円形を呈し木棺は西寄りに埋置される。成人棺であろうか。

### 7号木棺墓

3号木棺墓の北西に近接する小児用木棺墓で主軸は北向きである。墓域は不整形をなし墓域東



第31図 3号木棺墓(上)と2号石蓋土墳墓(下)



第32図 4号木棺墓検出状況

道情番号	主軸方向	墓域規模(cm) 長さ×幅×深さ	墓域 平面形状	棺内法(cm) 長さ×幅×深さ
1	N-82°-W	158 × (117+α) × 8	不整形円形	108 × 48 × 27
2	N-7°-E	302 × 117 × 20	不整形	218 × 72 × 3
3	N-21°-E	277 × 94 × 11	不整形長方形	219 × 44 × 26
4	N-73°-E	151 × 152 × 30	不整形円形	128 × 58 × 15
5	N-4°-E	196 × 112 × 7	不整形円形	137 × 59 × 41
6	N-25°50'-E	(210+α) × 132 × 2	不整形長円形	164 × 64 × 18
7	N-5°50'-E	137 × 144 × 3	不整形円形	89 × 37 × 8.5

第6表 上学地区木棺墓一覧表

に寄って埋置される。

#### 甕棺墓

調査区内より検出したカメ棺墓は1号甕棺墓のみであった。時期は弥生後期末末期に該当するものとする。

1号甕棺墓は7号石棺墓に併置されている合口甕棺墓である。21号住居跡に上、下甕とも切られており、各々下半部が残存するのみである。埋納傾斜角度は77°を計り合口部には黄褐色粘土の充填がみられた。上甕には大形広口壺が使用されており、頸根部に二条の突帯とともに三条の竹管文列が並ぶ、下甕胴部には5条の突帯がはしり、底部は丸みをもつ平底をなす。

#### 土壌

調査区内より検出した土壌は土壌墓の土器埋納土壌等も含め、その主なものを概説する。

##### 1号土壌

13号住居跡の東に位置する不整形形の浅い土壌である。埋土より土師器・須恵器片が出土している。

##### 2号土壌

16号住居跡に北東部を切られる不整形楕円形の土壌で、断面は外開きのU字状をなしている。

底面に貼り付いた状態で鈍一本と、底面より浮いて長頸壺2個体と短脚高杯が1個体出土している。

##### 3号土壌

2号土壌の南に2号土壌と切り合う土壌で主軸を北西方向に向ける。底面より浮いた状態で複合口縁壺が2個体、無頸壺1個体等が出土している。

##### 4号土壌

5号石棺墓の北西部に近接する小土壌で主



第33図 1号甕棺墓



第34図 2号土壌と土器出土状況



第35図 3号土壌と土器出土状況

軸を東西方向に向ける。平面形は長楕円形を呈し断面はU字形をなす。底面より浮いた状態で短脚1例を含めた高杯3個体等を出土した。

#### 5号土壌

21号住居跡に切られている不整楕円形状の土壌で7号石棺墓と主軸を同じくする。土壌墓であろう。

#### 6号土壌

11号土住居跡内の北側に位置する土壌で、9号住居跡に北端部を切られる。不整円形を呈し埋土中より土師器カメ等が出土している。

#### 7号土壌

9号石棺墓の西に併置する長楕円形の土壌で側面は垂直に立ちあがる。底面より浮いた状態で長頸壺、碗等が出土しており、それらと同レベルで朱塊が検出された。8号土壌と切り合う。

#### 8号土壌

主軸を南北方向に向ける不整楕円形の土壌で7号土壌等と切り合う。

#### 9号土壌

22号住居跡に切られ、北西—南東方向に主軸を向ける不整楕円形の土壌で、底面の東西に2段目の小土壌を掘り込む。底面より浮いた状態で、長頸壺2個体、高杯脚部等が出土した。

#### 10号土壌

3号木棺墓の南に掘られた不整円形状の土壌で底面より須恵器大ガメの胴部がまとまって出土した。

#### 11号土壌

10号土壌と切り合う隅丸長方形の大形土坑である。埋土中より須恵器片が出土している。住居跡の可能性を有し、今後検討を加える必要がある。

#### 12号土壌

11号土壌内北側に掘られる土壌で側壁は若干オーバーハングする。深く掘られた土壌で底面は暗茶褐色粘土質土に達する。当土壌を含め、13・14号土壌は貯蔵穴と思われる。

#### 13号土壌

8号土壌と仕り合う隅丸長方形の土壌で12号土坑と同様の形状を示す。



第36図 6号土壌と土器出土状況



第37図 9号土壌土器出土状況

#### 14号土壌

19号住居跡の北西に位置する小土壌で、側壁は大きくオーバーハングする。貯蔵穴と思われる。

#### 15号土壌

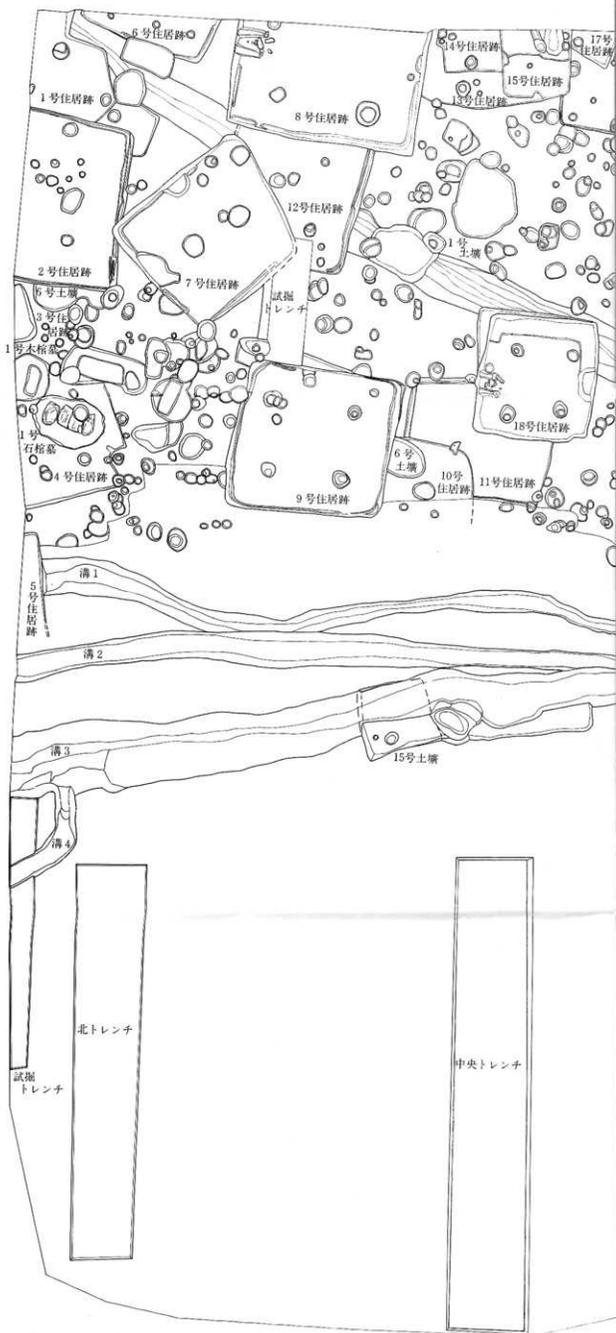
溝3に切られる長方形プランの土壌で側壁は垂直に落ちる。床面には柱穴が掘り込まれていた。貯蔵穴であろうか。

土壌番号	主軸方向	規 長さ × 幅 × 深さ	横(cm) × 深さ	平面形状	備 考
1	N-74°-E	272 × 225 × 8		不整円形	
2	N-1°-E	158 × 138 × 42		不整楕円形	祭祀土壌の可能性あり
3	N-41°50'-W	186 × 148 × 41		不整円形	祭祀土壌の可能性あり
4	N-67°-E	132 × 65 × 31		長楕円形	祭祀土壌の可能性あり
5	N-28°-E	273 × (136+α) × 14.5		不整楕円形	土壌墓の可能性あり
6	N-14°-E	(131+α) × 127 × 15		不整円形	
7	N-2°-E	274 × 120 × 66		長楕円形	祭祀土壌の可能性あり
8	N-4°-W	452 × (265+α) × 19		不整楕円形	
9	N-43°50'-E	237 × (146+α) × 44		不整楕円形	土壌墓・祭祀土壌の可能性あり
10	N-66°50'-E	158 × 151 × 30		不整円形	
11	N-9°-E	532 × 320 × 25		隅丸長方形	
12	N-21°-E	127 × 113 × 62		不整形	袋状土壌・貯蔵穴の可能性あり
13	N-47°-W	134.2 × 101 × 60		隅丸長方形	袋状土壌・貯蔵穴の可能性あり
14	N-87°50'-W	778 × 51 × 46		不整長円形	袋状土壌・貯蔵穴の可能性あり
15	N-66°40'-W	240 × (271+α) × 43		長方形	貯蔵穴の可能性あり

第7表 上学地区土壌一覧表



付图1 井原遺跡群松井地区遺構配置图 (1/100)





8  
1  
0  
1. 8

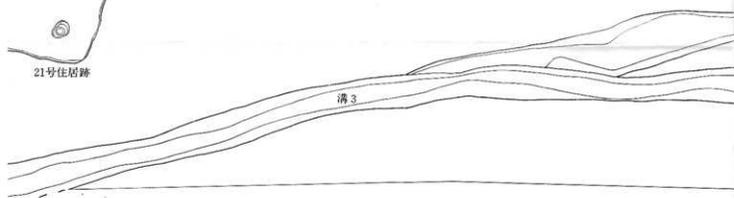
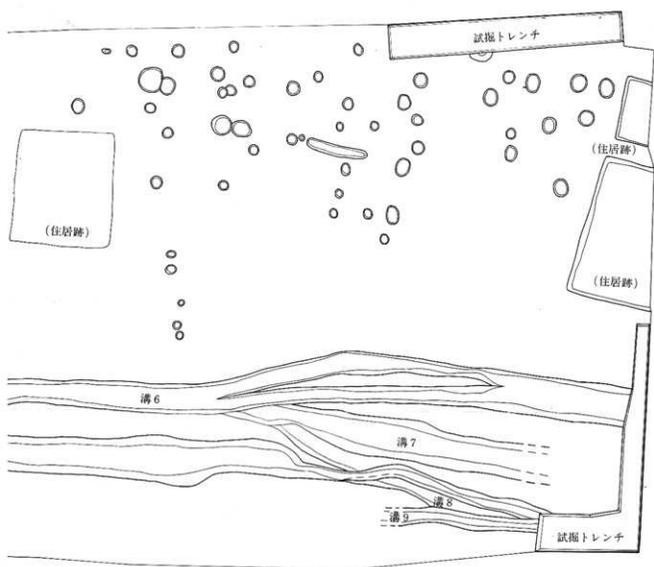


图2 井原道跡群上学地区遺構配置図



## 井原遺跡群 IV

昭和60年3月30日

発行 前原町教育委員会  
糸島郡前原町大字前原623

印刷 株式会社 川島弘文社  
福岡市東区箱崎ふ頭 6-4-4

